

最重要課題である収益性改善に向けて、原価の見える化に着手。データ取得手段としてノーコードツールを採用し、スモールスタートで着手。さらなる企業成長に向けて、段階的なデジタル化を計画。

さんべ食品工業株式会社				http://www.sanbe-sweet.com/	
本社所在地	大田市	資本金	1955万円	事業概要	果実加工、ジャム、サイダー、ジュースの瓶詰め、充填、受託加工
代表者名	勝部邦彦	従業員数	7名		
設立年	1932年	業種	食品加工業	地域未来牽引企業	

背景

- 清涼飲料水のOEM受託製造の受注が順調で、小ロットでの製造を受託できる競合先も少ないため、受注をさらに伸ばしたい意向であった。
- 受注が拡大している一方で、原価の把握が感覚的であり、結果として利益が薄い状態となっていた。
- 清涼飲料水のOEM受託製造においては、主担当者に過度に依存しており、製造予定や出荷予定が他のメンバーに適切に伝達できていないという問題が生じていた。
- また、主担当者に業務が集中していることで、原価分析などに時間を割けない状況に陥っていた。

計画の骨子

ノーコードツールの活用により、原価を把握する計画

- ▶ 専門家の支援を通じて、原価把握の手順を策定
- ▶ ノーコードツール「AppSheet」を試行し、原価把握に必要な各種データを取得する仕組みを整備することに着手
- ▶ 試行を通じてデジタルツールにも慣れていき、将来的にはオンライン受注等、さらなるデジタル化を図る予定

コミュニケーションツール採用により主担当者の負荷を軽減

- ▶ 組織内の情報共有にチャットツール「LINE WORKS」の利用を計画
- ▶ 情報共有を通じて、主担当者への過度な依存からの脱却を狙う